Keio Associated Reposit	tory of Academic resouces					
Title	「笑い」の経済学					
Sub Title	Economics of laughter					
Author	中島, 隆信(Nakajima, Takanobu)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2019					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)					
JaLC DOI						
	人間はなぜ笑うのか。これは古くて新しいテーマである。これまで哲学者や心理学者の手により多くの理論が登場してきたが、決定打といえるものは存在しない。その原因は、これまでの研究が多様性のある笑いという現象を統一的に説明することにこだわってきたからである。本研究では、笑いに至るまで複数のステップを想定し、それらをクリアするためにコストがかかると考える。ここでのコストは人間の脳にかかる負荷である。負荷の大きさは各人の特性や環境によって決まる。笑いに至るまでのステップは以下のようになる。ステップ1目にした現象を不自然なことだと認知することステップ3不自然なことをもたらした主体に親しみを抱くことステップ3不自然なことから心を解放すること名ステップ3不自然なことから心を解放すること名ステップ3不自然なことがら心を解放すること名ステップ3不自然なことがら心を解放すること名ステップ3不自然なことがら心を解放すること名ステップ3本自然なことがら心を解放することステップ3不自然なことがら心を解放すること名ステップ3本自然なことがら心を解放すること名ステップ3本自然なことがら心を解放することでステップ4を持ちやすくする。そのうえで、ボケが不自然なことを見せる。それに対してツッコらが「なんやそれ?」と反応することで不自然なことで強弱され、こちに「そんな訳ないやろ」とが「なんやそれ?」と反応することで不自然なことが強調され、さらに「そんな訳ないやろ」とが「なんやそれ?」と反応することで不自然なことが強調され、そらに「そんな訳ないやろ」とが「なんやそれ?」と反応することで集団心理が働き、心を解放するための負荷が大幅に軽減される。本研究では、この4ステップを用いた理論モデルを用い、世の中に存在するきまざまな笑いのメカニズムが解明された。そこにはビジネスに限らず、ジョーク、風刺、からかい、くすくりなど私たちの身近にあるさまざまな笑いと関連する現象を持ちからい、くすりなど私たちの身近にあるさまざまな笑いと関連する現象を持ちいといいといいではいまいまのはいまいまでは、このまはは、このははは中のよりははいまいまいまのははいまいまのははは中のよりははいまいまのははいまいまいまのははいまいまいまいまいまいまいまいまいまいまいま					
NI -4	the tree kinds of costs skillfully.					
Notes						
Genre	Research Paper					

URL

https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara\_id=2018000005-20180023

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2018 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	商学部	職名	教授	- 補助額	300 (	(A)	千円
	氏名	中島 隆信	氏名 (英語)	Takanobu NAKAJIMA		300 (7	(Α)	

研究課題(日本語)

「笑い」の経済学

研究課題(英訳)

Economics of laughter

## 1. 研究成果実績の概要

人間はなぜ笑うのか。これは古くて新しいテーマである。これまで哲学者や心理学者の手により多くの理論が登場してきたが、決定打といえるものは存在しない。その原因は、これまでの研究が多様性のある笑いという現象を統一的に説明することにこだわってきたからである。

本研究では、笑いに至るまで複数のステップを想定し、それらをクリアするためにコストがかかると考える。ここでのコストは人間の脳にかかる負荷である。負荷の大きさは各人の特性や環境によって決まる。笑いに至るまでのステップは以下のようになる。

ステップ1 目にした現象を不自然なことだと認知すること

ステップ2 不自然なことをもたらした主体に親しみを抱くこと

ステップ3 不自然なことに対して非当事者性を持つこと

ステップ4 不自然なことから心を解放すること

各ステップをクリアするためのコストは個人間でバラツキがあるので、笑いを産業化するには工夫が求められる。たとえば、寄席の漫才を考えてみよう。そもそも客は笑うために寄席に来ているので「心の解放」へのニーズがある。まず、漫才師はネタに入る前の「つかみ」で観客との距離を縮め共感を持ちやすくする。そのうえで、ボケが不自然なことを見せる。それに対してツッコミが「なんやそれ?」と反応することで不自然なことが強調され、さらに「そんな訳ないやろ」とボケの頭を叩くことで、観客に非当事者性を意識させるともに心の解放を助ける働きをする。また、他の観客と一緒にいることで集団心理が働き、心を解放するための負荷が大幅に軽減される。本研究では、この4ステップを用いた理論モデルを用い、世の中に存在するさまざまな笑いのメカニズムが解明された。そこにはビジネ

本研究では、この4ステップを用いた理論モデルを用い、世の中に存在するさまざまな笑いのメカニズムが解明された。そこにはビジネスに限らず、ジョーク、風刺、からかい、くすぐりなど私たちの身近にあるさまざまな笑いと関連する現象も含まれる。

## 2. 研究成果実績の概要(英訳)

The purpose of this research is to explore the structure how laughter appears and analyze the connection of laughter and social system.

To make up the failure of classical theory to explain laughter, I would like to present more general one that is "call-it-even theory of laughter." To rephrase, laughter is "mental release from unnaturalness by outsiderness." The point is we have to pay the following three kinds of cost to accomplish laughter.

- 1)Cost to discover and make unnatural things
- 2)Cost to make someone outsider of the unnatural things
- 3)Cost to release one's brain from unnatural things

Because the amount of these cost differs according to the person, someone laughs but others do not to face the same unnatural things. Classical theory of laughter has tried to universalize humor that causes laughter, but this theory, by introducing concept of cost, explains there is no universal humor in human society because of differences of cost level among people.

Base on this theory, laughter is absolutely personal. Laughter tends to be individual and exclusive. This tendency leads to the following shortcomings.

- 1)Difficult to make laughter business
- 2)laughter looks odd from outsiders' eyes

However, if someone succeed to generalize laughter it will be a big business. The conditions are as follows.

- 1)homogeneity of sense of values which determines what looks unnatural, and
- 2)lower both cost to make someone outsider of the unnatural things and cost to release one's brain from unnatural things.

Economics of Laughter surveys traditional theory of laughter and proposes call-it-even theory of laughter instead. Using this theory, we can explain the background of various kinds of laughter in our society. Furthermore, we investigate the technique how to industrialize laughter by controlling the tree kinds of costs skillfully.

3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
中島隆信	『笑いの解剖』	慶應義塾大学出版会	2019年12月(予定)					